



## マテリアリティ | 3つのカテゴリーと11の重要課題

GRI 3-1,3

### マテリアリティ特定プロセス

2020年度に、日油グループは「NOF VISION 2025」（2019年度策定の中期経営計画）のありたい姿を実現するために、優先的に取り組むべきESGの重要課題を選定しました。

STEP

1

社会課題の把握

従来のプロセスで検討したテーマに、新たな社会課題・注目度の高い課題を加え、候補テーマをリストアップしました。各種ガイドラインを参考に、マテリアリティ要素として分類・集約しました。

#### 参考資料

- ISO26000
- GRIスタンダード
- SASB CHEMICALS
- 国際統合報告フレームワーク
- SDGs
- 同業他社のマテリアリティ
- 社内ワークショップ

STEP

2

優先度の設定

マテリアリティ要素について、「社会への影響度」と「自社への影響度」の2軸で、取り組むべき優先度を評価しました。これには以下の項目を考慮しました。

- ① ESG評価機関による日油グループの評価結果
- ② 株主さまからいただいたESGに関するご意見
- ③ 日油グループが過去に推進してきた課題の視点

CSR活動の推進を担う各部門の意見を取りまとめた上で、役付執行役員で構成する政策会議、ならびに社長を委員長とするCSR委員会にオブザーバーとして社外取締役も参加して協議を行い、マテリアリティを選定しました。また、マテリアリティの主管部門・担当部門は、指標（KPI）・目標値を立案しました。

STEP

3

承認

マテリアリティを取締役会で承認しました。また、各項目の指標（KPI）・目標値は、取締役会の意見を踏まえて適宜修正しました。これに基づき、各部門はそれぞれの活動を実行しています。

STEP

4

レビュー

マテリアリティの各項目は、CSR委員会において年に1回以上、主管部門から指標（KPI）の実績を報告し、進捗状況を確認しています。また、ISSB、SSBJなどの外部要求事項や経営環境、社会の変化を踏まえ、中期経営計画の更新時などの節目において、マテリアリティの妥当性を継続的に見直していきます。2025年度は、2028新中期経営計画の始動に向け、マテリアリティをレビューしました。